

Dell EMC iDRAC サービスモジュール 3.2

ユーザーズ ガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: はじめに	5
新機能	5
対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス	5
OpenManage Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの共存	6
ソフトウェア可用性	7
iDRAC サービスモジュールのダウンロード	7
Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス	7
ソフトウェアライセンス契約	7
その他の必要マニュアル	7
章 2: インストール前のセットアップ	9
インストール要件	9
対応オペレーティングシステム	9
対応プラットフォーム	10
Windows オペレーティングシステム対応プラットフォーム	10
Linux オペレーティングシステム対応プラットフォーム	11
仮想オペレーティングシステム対応プラットフォーム	13
Precision ラックシステムの対応オペレーティングシステム	15
システム要件	15
章 3: iDRAC サービスモジュールのインストール	16
Windows 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール	16
iDRAC Express からの iSM の初期インストール	16
Linux 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール	17
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール	17
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール	17
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールコンポーネントの 変更	19
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールの修復	19
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール	20
対応 Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール	20
Linux オペレーティングシステムのプレインストール要件	20
Linux インストールの依存性	21
Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール	21
Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール	23
VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール	23
vSphere CLI の使用	23
VMware vSphere Management Assistant の使用	24
VMware Update Manager (VUM) の使用	24
Power CLI の使用	25
VMware ESXi の iDRAC サービスモジュールのアップグレード	25
VMware ESXi の iDRAC サービスモジュールのアンインストール	25
Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール	26
Citrix XenServer への Dell GPG キーのインポート	26

Citrix XenCenter 管理 GUI ダッシュボードを使用した iDRAC サービスモジュールのインストール.....	26
SSH またはローカルコマンドシェルを使用した iDRAC サービスモジュールのインストール.....	26
システム設定ロックダウンモードが有効な場合の iDRAC サービスモジュールのインストール.....	27
iSM インストーラを取得するための iDRAC URI のサポート.....	27
iDRAC FQDN としての idrac.local および drac.local のサポート.....	27
ホスト OS を介したよりシンプルな iDRAC アクセス.....	27
章 4: iDRAC サービスモジュールの設定.....	28
iDRAC ウェブインタフェースからの iDRAC サービスモジュールの設定.....	28
RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定.....	28
WSMAN からの iDRAC サービスモジュールの設定.....	29
章 5: iDRAC サービスモジュール監視機能.....	30
オペレーティングシステム情報.....	30
オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション.....	31
自動システムリカバリ.....	31
Windows Management Instrumentation プロバイダ.....	31
NVMe PCIe SSD デバイスの取り外しの準備.....	31
リモート iDRAC ハードリセット.....	31
ホスト OS を介した iDRAC アクセス.....	32
iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート.....	32
WSMAN のリモートでの有効化.....	32
iDRAC サービスモジュールの自動アップデート.....	33
FullPowerCycle.....	33
ボックス上の SupportAssist.....	34
SupportAssist 登録.....	35
SupportAssist Collection.....	35
SupportAssist Collection の設定.....	36
帯域内 SNMP Get 機能の有効化 - Linux.....	37
帯域内 SNMP Get 機能の有効化 - Windows.....	38
iDRAC GUI の起動.....	38
章 6: よくあるお問い合わせ (FAQ)	39
章 7: Linux および Ubuntu インストーラパッケージ.....	44

はじめに

本ガイドは、サポートされるオペレーティングシステムで iDRAC サービスモジュールをインストールする方法についての情報とステップバイステップ手順を説明します。

Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) サービスモジュールは、第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバーにインストールすることができる、オプションの軽量ソフトウェアアプリケーションです。iDRAC サービスモジュールは、iDRAC インタフェース (グラフィカルユーザーインターフェース (GUI)、RACADM CLI、および Web Service Management (WSMAN)) を追加のモニタデータで補完します。モジュールの機能は、インストールされる機能、およびお使いの環境固有の統合ニーズに応じて、対応オペレーティングシステム上で設定することができます。

iDRAC サービスモジュールアーキテクチャは IP ソケット通信を使用し、追加のシステム管理データ (OS/ デバイスドライバ) を iDRAC に提供します。また、OS 標準インタフェースを介したシステム管理データへのアクセスを持つ 1 対多コンソールも提供します。

トピック：

- [新機能](#)
- [対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス](#)
- [OpenManage Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの共存](#)
- [ソフトウェア可用性](#)
- [iDRAC サービスモジュールのダウンロード](#)
- [Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス](#)
- [ソフトウェアライセンス契約](#)
- [その他の必要マニュアル](#)

新機能

- Redhat Enterprise Linux 7.5 オペレーティングシステム (64 ビット) のサポート。
- VMware ESXi 6.7 のサポート。
- Citrix XenServer 7.1 CU1 のサポート
- ESXi Live VIB アップグレードのサポート。
- 第 12 世代と第 13 世代での SupportAssist 匿名アップロードのサポート。
- iDRAC からの ESXi パッケージのダウンロードのサポート。
- MX740c および MX840c プラットフォームのサポート。

対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス

次のリストは、対応機能とオペレーティングシステムのリストです。

次の機能は、第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代の Dell EMC PowerEdge サーバでサポートされます。

表 1. 対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス

機能		オペレーティングシステム			
		[Microsoft Windows (HyperV システムを含む)]	[Linux]	[仮想化 (VMware ESXi)]	[仮想化 (Citrix XenServer)]
OS 情報の共有	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有	有
LC ログレプリケーション	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有	有

表 1. 対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス（続き）

機能		オペレーティングシステム			
自動システムリカバリ / ウォッチドッグ	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有	有
Windows Management Instrumentation プロバイダ	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	無	無	無
iDRAC を使用した NVMe デバイスの取り外し準備	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有	有
SupportAssist Collection	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有	有
OS およびアプリケーションデータ	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	はい(第 14 世代のみ)	有
リモート iDRAC ハードリセット	第 13 世代、第 14 世代	有	有	有	有
ホスト OS を介した iDRAC アクセス	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	無	有
iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有	有
Redfish クライアントを介したネットワークインタフェース監視のサポート	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有	有
WSMAN のリモートでの有効化	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	無	無	無
FullPowerCycle	第 14 世代	有	有	無	無
帯域内 SNMP Get	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	無	無
Live VIB のインストール	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	無	無	有	無
SupportAssist-Anonymous Collection Report	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有	有
iDRAC GUI の起動	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	無	無	無

OpenManage Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの共存

システム内に、OpenManage Server Administrator (OMSA) と iDRAC サービスモジュールの両方を共存させることができます。iDRAC サービスモジュールのインストール中にモニタ機能を有効にした場合、インストールが完了した後に iDRAC サービスモジュールが OMSA の存在を検知し、重複しているモニタ機能一式を無効にします。iDRAC サービスモジュールは OMSA とその機能をポーリングし続けます。OMSA が停止した場合は、常にそれぞれの iDRAC Server Administrator サービスモジュールが有効になります。

ソフトウェア可用性

iDRAC サービスモジュールソフトウェアは、次から利用できます。

- 『Dell EMC OpenManage Systems Management Tools and Documentation』 DVD
- サポートサイト — dell.com/support

iDRAC サービスモジュールのダウンロード

iDRAC サービスモジュールソフトウェアは、[dell.com/support/home] からダウンロードできます。サポートサイトで、[すべての製品から選択] > [ソフトウェアおよびセキュリティ] > [エンタープライズシステム管理] > [iDRAC Service Module] の順にクリックします。最新バージョンの iSM を選択し、[ドライバおよびダウンロード] をクリックします。

Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス

次のリンクを使用して、必要なドキュメントにアクセスします。

- Dell EMC エンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/SoftwareSecurityManuals
- Dell EMC OpenManage マニュアル — www.dell.com/OpenManageManuals
- Dell EMC リモートエンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/esmmanuals
- iDRAC および Dell EMC Lifecycle Controller マニュアル — www.dell.com/idracmanuals
- Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement
- Dell EMC Serviceability Tools マニュアル — www.dell.com/ServiceabilityTools
- 1. www.dell.com/Support/Home にアクセスします。
- 2. [すべての製品から選択] をクリックします。
- 3. [すべての製品] セクションで [ソフトウェアおよびセキュリティ] をクリックして、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - Enterprise Systems Management (エンタープライズシステム管理)
 - Remote Enterprise Systems Management (リモートエンタープライズシステム管理)
 - Serviceability Tools (保守ツール)
 - Dell Client Command Suite (デルクライアントコマンドスイート)
 - Connections Client Systems Management (接続クライアントシステム管理)
- 4. ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
 - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。

ソフトウェアライセンス契約

iDRAC サービスモジュールのサポートされるバージョンのオペレーティングシステム向けソフトウェアライセンスは、インストーラに含まれています。license_agreement.txt ファイルをお読みください。メディア上にファイルをインストールまたはコピーすることにより、license_agreement.txt ファイルの条件に同意したものと見なされます。

その他の必要マニュアル

このガイド以外にも、デルサポートサイト [dell.com/support/home] で入手できる次のガイドにアクセスできます。

- 『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』には、iDRAC の設定と使用についての詳細が記載されています。
- 『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』では、Racadm コマンドラインユーティリティの使い方についての情報を提供します。

- 『Dell Update Packages ユーザーズガイド』は、システムアップデート対策の一環としての Dell Update Packages の入手方法と使い方を説明しています。
- 『Dell Event Messages Reference ガイド』には、システムコンポーネントを監視するファームウェアおよびその他エージェントによって生成されるイベントとエラーについての情報を提供します。
- 『Dell Lifecycle Controller 2 Web Services インタフェースガイド』は、Management (WS-Man) Management プロトコルのために Web サービスを活用するための情報と例を提供します。

インストール前のセットアップ

iDRAC サービスモジュールをインストールする前に、次の条件を確認します。

- 第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバ。対応プラットフォームのリストに関しては、「[対応プラットフォーム](#)」を参照してください。
- 最小ファームウェアバージョン - iDRAC8 - 2.60.60.60 および iDRAC9 - 3.21.21.21。
- システム管理者特権。
- オペレーティングシステムのインストール手順をお読みください。
- 該当するリリースノートファイル、および『システムソフトウェアサポートマトリクス』をお読みください。
- インストール要件を読み、ご使用のシステムが最小要件を満たしていることを確認してください。
- iDRAC サービスモジュールアプリケーションをインストールする前にシステムで実行されているすべてのアプリケーションを終了してください。

トピック：

- [インストール要件](#)
- [対応オペレーティングシステム](#)
- [対応プラットフォーム](#)
- [システム要件](#)

インストール要件

[対応オペレーティングシステム](#)を参照し、iDRAC サービスモジュールの対応オペレーティングシステムのリストを確認してください。

 **メモ:** オペレーティングシステム固有の必要条件がインストール手順として記載されています。

 **メモ:** iDRAC サービスモジュールは、ユーザーインターフェースを使用してインストールできます。このインストーラはサイレントインストール方式もサポートしています。

対応オペレーティングシステム

iDRAC サービスモジュールのサポートは、次の 64 ビットオペレーティングシステムに対応しています。

- Microsoft Windows Server 2012 R2
- Microsoft Windows Server 2016
- Red Hat Enterprise Linux 6.9
- Red Hat Enterprise Linux 7.5
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4
- VMware vSphere (ESXi) 6.7
- VMware vSphere (ESXi) 6.5 U1
- CentOS 6.9
- CentOS 7.4
- Citrix Xen 7.1 CU1
- Win10 クライアント
- RHEL7.5 ワークステーション

 **メモ:** iDRAC サービスモジュールは、リストされている任意の CentOS バージョンにインストールすることができます。デルは、CentOS に対しては限定されたサポートしか提供しません。CentOS に関するサポートの詳細については、CentOS コミュニティにお問い合わせください。

対応プラットフォーム

iDRAC サービスモジュール 3.2 は、第 12 世代から第 14 世代の Dell PowerEdge サーバをサポートします。

Windows オペレーティングシステム対応プラットフォーム

次の表は、Windows オペレーティングシステムの iDRAC サービスモジュール 3.2 でサポートされているプラットフォームのリストです。

表 2. Windows オペレーティングシステム対応プラットフォーム

Dell システム	Windows Server 2016	Microsoft Windows Server 2012 R2
第 14 世代サーバ		
MX740c	有	有
MX840c	有	有
R840	有	有
R940xa	有	有
R7425	有	有
R7415	有	有
R6415	有	有
C6420	有	有
FC 640	有	有
FD 332	有	有
M640	有	有
M640-VRTX	有	有
R440	有	有
R540	有	有
R640	有	有
R740	有	有
R740 XD	有	有
R940	有	有
T440	有	有
第 13 世代サーバ		
C4140	有	無
C4130	有	有
C6320	有	有
FC 430	有	有
FC 630	有	有
FC 630	有	有
FC 830	有	有
M630	有	有
M630	有	有

表 2. Windows オペレーティングシステム対応プラットフォーム（続き）

Dell システム	Windows Server 2016	Microsoft Windows Server 2012 R2
M830	有	有
R230	有	有
R330	有	有
R430	有	有
R530	有	有
R630	有	有
R730	有	有
R730 XD	有	有
R830	有	有
R930	有	有
T130	有	有
T330	有	有
T430	有	有
T630	有	有
第 12 世代サーバ		
FM120	有	有
M420	有	有
M520	有	有
M620	有	有
M820	有	有
R220	有	有
R320	有	有
R420	有	有
R520	有	有
R620	有	有
R720	有	有
R720 XD	有	有
R820	有	有
R920	有	有
T320	有	有
T420	有	有
T620	有	有

Linux オペレーティングシステム対応プラットフォーム

次の表は、Linux オペレーティングシステムの iDRAC サービスモジュール 3.2 でサポートされているプラットフォームのリストです。

表 3. Linux オペレーティングシステム対応プラットフォーム

Dell システム	SLES 11 SP4	SLES 12 SP3	RHEL 7.4	RHEL 7.5	RHEL 6.9
第 14 世代サーバ					
MX740c	無	有	無	有	無
MX840c	無	有	無	有	無
R840	無	有	無	有	無
R940xa	無	有	無	有	無
R7425	無	有	有	無	有
R7415	無	有	有	無	有
R6415	無	有	有	無	有
C6420	無	有	無	有	有
FC640	無	有	無	有	有
FD332	無	有	無	有	有
M640	無	有	無	有	有
M640-VRTX	無	有	無	有	有
R7425	無	有	無	有	有
R7415	無	有	無	有	有
R6415	無	有	無	有	有
R440	無	有	無	有	有
R540	無	有	無	有	有
R640	無	有	無	有	有
R740	無	有	無	有	有
R740xd	無	有	無	有	有
R940	無	有	無	有	有
T440	無	有	無	有	有
第 13 世代サーバ					
C4130	有	有	無	有	有
C6320	有	有	無	有	有
FC 430	有	有	無	有	有
FC 630	有	有	無	有	有
FC 830	有	有	無	有	有
M630 VRTX	有	有	無	有	有
M630	有	有	無	有	有
M830	有	有	無	有	有
R230	有	有	無	有	有
R330	有	有	無	有	有
R430	有	有	無	有	有
R530	有	有	無	有	有
R630	有	有	無	有	有

表 3. Linux オペレーティングシステム対応プラットフォーム（続き）

Dell システム	SLES 11 SP4	SLES 12 SP3	RHEL 7.4	RHEL 7.5	RHEL 6.9
R730	有	有	無	有	有
R730 XD	有	有	無	有	有
R830	有	有	無	有	有
R930	有	有	無	有	有
T130	有	有	無	有	有
T330	有	有	無	有	有
T430	有	有	無	有	有
T630	有	有	無	有	有
第 12 世代サーバ					
FM120	有	無	無	有	有
M420	有	無	無	有	有
M520	有	無	無	有	有
M620	有	無	無	有	有
M820	有	無	無	有	有
R220	有	無	無	有	有
R320	有	無	無	有	有
R420	有	無	無	有	有
R520	有	無	無	有	有
R620	有	無	無	有	有
R720	有	無	無	有	有
R720 XD	有	無	無	有	有
R820	有	無	無	有	有
R920	有	無	無	有	有
T320	有	無	無	有	有
T420	有	無	無	有	有
T620	有	無	無	有	有

仮想オペレーティングシステム対応プラットフォーム

次の表は、仮想化オペレーティングシステムの iDRAC サービスモジュール 3.2 でサポートされているプラットフォームのリストです。

表 4. 仮想オペレーティングシステム対応プラットフォーム

Dell システム	VMware	
	vSphere 6.5 U1	vSphere 6.7
第 14 世代サーバ		
MX740c	有	有
MX840c	有	有
R840	有	有

表 4. 仮想オペレーティングシステム対応プラットフォーム（続き）

Dell システム	VMware	
	vSphere 6.5 U1	vSphere 6.7
R940xa	有	有
R7425	有	有
R7415	有	有
R6415	有	有
C6420	有	有
FC640-VRTX	有	有
FC640	有	有
FD332	有	有
M640	有	有
M640-VRTX	有	有
R440	有	有
R540	有	有
R640	有	有
R740	有	有
R740xd	有	有
R940	有	有
T440	有	有
第 13 世代サーバ		
C4130	無	有
C6320	無	有
FC 430	有	有
FC 630	有	有
FC 830	有	有
M630	有	有
M630	有	有
M830	有	有
R230	有	有
R330	有	有
R430	有	有
R530	有	有
R630	有	有
R730	有	有
R730 XD	有	有
R830	有	有
R930	有	有
T130	有	有

表 4. 仮想オペレーティングシステム対応プラットフォーム（続き）

Dell システム	VMware	
	vSphere 6.5 U1	vSphere 6.7
T330	有	有
T430	有	有
T630	有	有
第 12 世代サーバ		
FM120	有	無
M420	有	無
M520	有	無
M620	有	無
M820	有	無
R220	有	無
R320	有	無
R420	有	無
R520	有	無
R620	有	無
R720	有	無
R720 XD	有	無
R820	有	無
R920	有	無
T320	有	無
T420	有	無
T620	有	無

Precision ラックシステムの対応オペレーティングシステム

次の表は、Precision ラックシステムのオペレーティングシステムのリストです。

表 5. Precision ラックシステムの対応オペレーティングシステム

Dell システム	Microsoft Windows 10	RHEL 7.5
R7920	有	有

システム要件

- 対応オペレーティングシステムのいずれか。対応オペレーティングシステムの詳細に関しては、[対応オペレーティングシステム](#)を参照してください。
- 最低 2GB の RAM。
- 最低 512MB の空きハードディスクドライブ容量。
- システム管理者権限。
- TCP/IP v4 接続。

iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュールは次のいずれのオペレーティングシステムにもインストールできます。

- Microsoft Windows オペレーティングシステムへの iDRAC サービスモジュールのインストール
- 対応 Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール
- VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール
- Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール

トピック：

- Windows 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール
- iDRAC Express からの iSM の初期インストール
- Linux 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール
- Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール
- 対応 Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール
- VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール
- Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール
- システム設定ロックダウンモードが有効な場合の iDRAC サービスモジュールのインストール

Windows 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール

iDRAC インタフェースから iSM をインストールできます。iSM は、ホスト OS のある iDRAC インストーラパッケージを使用し、シングルクリックインストールでインストールすることができます。このインストーラパッケージを使用すれば、デルサポートに問い合わせる必要も、iSM をインストールする OM DVD も必要ありません。この機能により、iSM の互換バージョンが、サポートされている iDRAC ファームウェアにインストールされていることが確認できます。

iDRAC から iSM を初期インストールする手順：

1. [iDRAC サービスモジュールのセットアップ] ページにアクセスします。[サービスモジュールのインストール] ボタンをクリックします。
[サービスモジュールインストーラ] ダイアログボックスが表示されます。
2. システムに適切なスクリプトを選択し、[仮想コンソールの起動] をクリックします。
3. **セキュリティの警告** ダイアログボックスで、[続行] をクリックします。
ダイアログボックスには、アプリケーションステータスの確認を表示できます。
4. **セキュリティの警告** ダイアログボックスで、ライセンス契約の条件に同意し、[実行] をクリックします。
5. 資格情報を使用して、リモート / ローカルシステム (ホスト OS) にログインします。
インストーラファイルはローカルシステムにあります。
① メモ: インストーラは、ホスト OS で 30 分間使用できます。30 分以内にインストールを開始しないと、サービスモジュールのインストールを再開する必要があります。
6. ボリューム (SMINST) をダブルクリックして、ISM_Win.bat スクリプトを実行します。
[iDRAC サービスモジュール] インストーラウィザードが表示されます。
7. 一般的なインストール手順を続行し、インストールを完了します。
① メモ: インストールが完了したら、インストーラファイルはローカル / ホスト OS から削除されます。
① メモ: [iDRAC サービスモジュールのセットアップ] ページで、インストールが完了すると、[サービスモジュールのインストール] ボタンが無効になります。サービスモジュールのステータスは実行中として表示されます。

iDRAC Express からの iSM の初期インストール

1. [iDRAC サービスモジュール] セットアップページから、[サービスモジュールのインストール] をクリックします。サービスモジュールインストーラがホスト OS に公開され、ジョブが iDRAC で作成されています。
2. Microsoft Windows OS の場合、サーバに RDP するか、物理サーバコンソールに移動します。Linux OS の場合、ホスト IP に SSH するか、物理サーバコンソールに移動します。
3. **SMINST** というラベルの付いたデバイス一覧で、マウントされたボリュームを見つけ、適切なスクリプトをクリックして、インストールを開始します。Microsoft Windows OS の場合は、ISM-Win.bat スクリプトを実行します。Linux OS の場合、シェルから ISM-Lx.sh スクリプトを実行します。
4. インストールが完了すると、iDRAC にサービスモジュールが **インストール済み** と表示され、最後にインストールされた日付が表示されます。

 **メモ:** インストーラは、ホスト OS で 30 分間使用できます。30 分以内にインストールを開始しないと、サービスモジュールのインストールを再開する必要があります。

Linux 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール

Linux オペレーティングシステム用の iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストールは次のように行います。

1. マウントされたボリューム全体に対して実行します (SMINST)。
2. `sh ISM_Lx.sh` コマンドを実行します。
3. `fdisk -l` を使用して、Ubuntu で公開されているドライブを見つけ、ディレクトリにマウントします。
4. `bash ISM_Lx.sh` を使用してコマンドを実行します。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュールは、デフォルトでサポートされているオペレーティングシステムにすべての機能をインストールし、すべての機能を有効にします。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

サポートされているオペレーティングシステム向けの iDRAC サービスモジュールインストーラは、『Systems Management Tools and Documentation』DVD に収録されています。また、dell.com/support/home から iDRAC サービスモジュールインストーラをダウンロードすることもできます。

適切なコマンドラインスイッチを使用して、手動または自動インストールのいずれかの操作を実行することができます。iDRAC サービスモジュールは、OpenManage Essentials (OME) などのコンソールを使用した **プッシュ** メカニズムを使ってインストールできます。

 **メモ:** 次の手順は、オペレーティングシステム環境でサードパーティの PowerShell モジュールパスが見つからない場合にのみ実行してください。

1. [SYSMGMT] > [iSM] > [Windows] を参照して、iDRACSvcMod.msi を実行します。
[iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザード] が表示されます。
2. [次へ] をクリックします。
[ライセンス契約] が表示されます。
3. ソフトウェアライセンス契約を読んで、[ライセンス契約の条件に同意します] を選択してから、[次へ] をクリックします。
4. 次のオプションから [セットアップタイプ] を選択し、[次へ] をクリックします。
 - **標準** - すべてのプログラム機能がインストールされます (必要なディスク容量は最大)。
 - **カスタム** - インストールするプログラム機能と場所を選択することによって、インストールをカスタマイズします (上級ユーザー推奨)。

利用できるオプションは次のとおりです。

- **オペレーティングシステム情報**
- **自動システムリカバリ**

- Lifecycle ログレプリケーション
- Windows Management Instrumentation (WMI) プロバイダ
- Windows リモート管理
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- iDRAC ハードリセット
- Support Assist
- iDRAC GUI の起動

メモ: 次の手順は、[セットアップタイプ] ウィンドウで [カスタム] オプションを選択した場合のみに該当します。

メモ: デフォルトでは、[帯域内 SNMP トラップ] 機能は有効になっていません。

- インストールするプログラムの機能を選択して、[次へ] をクリックします。
[Lifecycle Controller ログレプリケーション] ウィンドウが表示されます。
- LC ログを複製する場所を指定します。デフォルトでは、[標準 (Windows ログ / システム)] オプションが選択されており、LC ログは **イベントビューア** の **Windows ログ** フォルダにある **システム** グループ内に複製されます。[次へ] をクリックします。

メモ: [Lifecycle Controller ログレプリケーション] ウィンドウで [カスタム] オプションを選択することによって **アプリケーションとサービス ログ** フォルダ内にカスタムグループを作成することもできます。

- 認証モードを選択して WSMAN をリモートで有効化し、認証証明書が見つからない場合は自己署名証明書をインストールします。WINRM のポート番号を入力して通信を確立します。デフォルトのポート番号は 5986 です。

- Host OS 機能を介した iDRAC アクセスによって使用される一意のポート番号を入力します。

メモ: 1024 ~ 65535 の範囲内でポート番号を入力してください。

メモ:

入力しない場合、ポート番号 1266 か、以前に設定されたポート (ある場合) がデフォルトで割り当てられます。

[プログラムのインストール準備完了] が表示されます。

- [インストール] をクリックして、インストールを続行します。

[戻る] をクリックしてプリファランスを変更することもできます。

メモ: iDRAC サービスモジュールがインストールされている場合でも、「iDRAC サービスモジュールと iDRAC の間の通信を確立できません。最新の iDRAC サービスモジュールインストールガイドを参照してください。」というメッセージがホスト OS のログに表示されることがあります。トラブルシューティングの詳細については、「よくあるお問い合わせ (FAQ)」を参照してください。

これで iDRAC サービスモジュールが正常にインストールされました。

- [F i n i s h] (終了) をクリックします。

メモ: Microsoft Windows 2016 オペレーティングシステムでは、iDRAC USB NIC デバイスの説明は、「リモート NDIS 対応デバイス」として表示されます。ユーザーのアクションは必要ありません。

サイレントインストール

iDRAC サービスモジュールは、インタラクティブなコンソールを使用せずにバックグラウンドのサイレントインストールでインストールすることができます。

- サイレントインストールを使用して iDRAC サービスモジュールをインストールするには、コマンドプロンプトに `msiexec /i iDRACSvcMod.msi /qn` と入力します。
- インストールログを生成するには、`/L*V <logname with the path>` を入力します。 `msiexec /i iDRACSvcMod.msi /L*V <logname with the path>`
- LC ログを既存のグループ、またはカスタムフォルダに複製するには、`/CP LCLOG_VIEW="<existing group name or custom folder name>"` を入力します。 `msiexec /i iDRACSvcMod.msi /CP LCLOG_VIEW="<existing group name or custom folder name>"`
- サイレントインストールを使用してホスト OS の iDRAC 機能を經由して iDRAC アクセスをインストールするには、`/ADDLOCAL=IBIA` を入力します。 `msiexec /i <location of the installer file>/iDRACSvcMod.msi ADDLOCAL=IBIA /qn`
- WSMAN をインストールするには、`msiexec.exe /i iDRACSvcMod.msi ADDLOCAL="WSMAN_Enablement"` を入力します。 `msiexec.exe /i iDRACSvcMod.msi ADDLOCAL="WSMAN_Enablement"`
- サポートされている言語でユーザーインタフェースを表示するには、`CP_SELF_SIGN_CERT="2" CP_WSMAN_PORT="1234" CP_CERTIFICATE="1" CP_NEGOTIATE="1" /qn` を入力します。 `CP_SELF_SIGN_CERT="2" CP_WSMAN_PORT="1234" CP_CERTIFICATE="1" CP_NEGOTIATE="1" /qn`
- サポートされている言語でユーザーインタフェースを表示するには、`TRANSFORMS=<locale number>.mst` を入力します。ここでのロケール番号は次のとおりです。

表 6. サイレントインストール

ロケール番号	言語
1031	ドイツ語
1033	英語 (米国)
1034	スペイン語
1036	フランス語
1041	日本語
2052	簡体字中国語

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールコンポーネントの変更

iDRAC サービスモジュールコンポーネントを変更するには、次の操作を実行します。

1. [SYSMGMT] > [iSM] > [Windows] と参照して、iDRACSvcMod.msi を実行します。
[iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザード] が表示されます。
 2. [次へ] をクリックします。
 3. [修正] を選択します。
 4. 必要に応じて機能を有効化または無効化し、[次へ] をクリックします。
[Lifecycle Controller ログレプリケーション] ウィンドウが表示されます。
 5. LC ログを複製する必要がある場所を指定します。デフォルトでは [標準 (Windows ログ / システム)] オプションが選択されており、LC ログは **イベント ビューア** の **Windows ログ** フォルダにある **システム** グループ内に複製されます。[次へ] をクリックします。
 -  **メモ:** [Lifecycle Controller ログレプリケーション] ウィンドウで [カスタム] オプションを選択することによって **アプリケーションとサービス ログ** フォルダ内にカスタムグループを作成することもできます。
 -  **メモ:** 次のような状況では、システムを再起動する必要がある場合があります。
 - [標準 (Windows ログ / システム)] オプションと [カスタム] オプションを切り替えた場合。
 - ひとつのカスタムフォルダから別のフォルダに切り替えた場合。
- [インストールの準備完了] 画面が表示されます。
6. Host OS 機能を介した iDRAC アクセスによって使用される一意のポート番号を入力します。
 -  **メモ:** 1024 ~ 65535 の範囲内でポート番号を入力してください。
 -  **メモ:** 入力しない場合、ポート番号 1266 か、以前に設定されたポート (ある場合) がデフォルトで割り当てられます。
 7. 処理を続行するには [インストール] をクリックします。
[戻る] をクリックしてプリファランスを変更することもできます。
これで iDRAC サービスモジュールが正常に変更されました。
 8. [終了] をクリックします。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールの修復

故障している、または機能しない iDRAC サービスモジュールコンポーネントを修復する場合は、次の手順を実行します。

1. [SYSMGMT] > [iSM] > [Windows] と参照して、iDRACSvcMod.msi を実行します。
[iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザード] が表示されます。
2. [次へ] をクリックします。

3. [修復] を選択し、[次へ] をクリックします。
[インストールの準備完了] が表示されます。
4. 処理を続行するには [修復] をクリックします。
環境設定を変更するには、[戻る] をクリックします。
これで iDRAC サービスモジュールコンポーネントが正常に修復されました。
5. [終了] をクリックします。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、次の 2 種類の方法でアンインストールできます。

- 製品 ID を使用した無人アンインストール
- 追加 / 削除機能を使用したアンインストール

製品 ID を使用した無人アンインストール

`msiexec /x {6728BF98-EB2D-413D-A629-F24A3C0C9631} /qn` と入力し、製品 ID を使用して iDRAC サービスモジュールをアンインストールします。

追加 / 削除機能を使用したアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、コントロールパネルから [追加] または [削除] オプションを使用してアンインストールできます。[スタート] > [コントロールパネル] > [プログラムと機能] の順にクリックします。

① **メモ:** `iDRACSvcMod.msi` を実行し、[アンインストール] を選択してアンインストールすることもできます。

① **メモ:** Windows イベント ビューアの **Windows ログ** フォルダにある **Application** グループで、iDRAC サービスモジュールログを表示できます。

対応 Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュール全体は 1 つの Red Hat Package Manager (RPM) にパッケージ化されています。パッケージはシェルスクリプトとともに提供され、インストール、アンインストール、または使用可能な機能の有効 / 無効を切り替えることができます。

Linux のインストーラは単一 rpm インストールであるため、細かいインストールサポートはありません。機能の有効 / 無効の切り替えは、スクリプト形式のインストールでのみ可能です。

① **メモ:** インストーラは、iDRAC サービスモジュール対応の 64 ビットバージョンの Linux オペレーティングシステムで使用できます。

① **メモ:** Yellowdog Updater, Modified (YUM)、VMware Update Manager (VUM) および Citrix XenServer Supplemental Pack などのリポジトリベースのインストールでは、デフォルトですべての機能が有効になっています。

① **メモ:** CentOS では、SupportAssist Collection の OS ログ収集機能はサポートされません。

Linux オペレーティングシステムのプレインストール要件

対応 Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムに iDRAC サービスモジュールをインストールするには、`setup.sh` を実行します。

次のような基本的な機能要件を満たしていることを確認します。

- OS-to-iDRAC パススルー機能がデフォルトで無効になっている。

 **メモ:** iDRAC サービスモジュールのインストール後に自動的に有効になります。

- IPv 4 ネットワークスタックがホストオペレーティングシステムで有効になっている。
- USB サブシステムが有効になっている。
- `udev` が有効になっている。iDRAC サービスモジュールを自動で起動するために必要です。

iDRAC の詳細については、dell.com/support/home で最新の『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』を参照してください。

Linux インストールの依存性

次は、インストールを完了するためにインストールする必要がある依存パッケージ / 実行可能ファイルのリストです。

表 7. Linux インストールの依存性

実行可能コマンド	パッケージ名
/sys	fileSystem
grep	grep
cut、cat、echo、pwd、	coreutils
lsusb	usbutils
find	findutils
シェルスクリプトコマンド	bash
ifconfig	net-tools
ping	iputils
chkconfig	RedHat Enterprise Linux • chkconfig SUSE Linux Enterprise Server • aaa_base
install_initd	RedHat Enterprise Linux • redhat-lsb-core SUSE Linux Enterprise Server • insserv
Systemctl	systemd

Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

1. インストールできる機能が画面に表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。

- [1] ウォッチドッグ Instrumentation Service。
- [2] Lifecycle ログ情報。
- [3] オペレーティングシステム情報。
- [4] ホスト OS を介した iDRAC アクセス。
 - [a] GUI、WS-MAN、Redfish、リモート RACADM を介したアクセス
 - [b] 帯域内 SNMP トラップ
 - [c] SNMP Get を介したアクセス
- [5] iDRAC ハードリセット。
- [6] SupportAssist
- [7] FullPowerCycle
- [8] すべての機能。

2. 必要な機能をインストールするには、それぞれの機能の番号を入力します。

メモ: コンマでインストールする機能の番号を区切ってください。

メモ: サブ機能をインストールするには、[4.a、4.b、または 4.c] を入力します。

3. インストールを続行しない場合は、**q** と入力して終了します。

メモ: 別の機能のインストール後も、同様に設定を変更できます。

メモ: お使いの Linux オペレーティングシステムに iDRAC サービスモジュールがインストールされているかどうかを識別するには、`/etc/init.d/dcismeng status` コマンドを実行します。iDRAC サービスモジュールがインストールされ実行されている場合は、**実行中** 状態が表示されます。

メモ: iDRAC サービスモジュールが RedHat Enterprise Linux 7 または SUSE Linux Enterprise 12 オペレーティングシステムにインストールされているかどうかをチェックするには、`init.d` コマンドの代わりに `systemctl status dcismeng.service` コマンドを使用します。

メモ: ホスト OS を介した iDRAC アクセス機能をインストールした場合、1024 ~ 65535 の範囲内で固有のポート番号を指定する必要があります。入力しない場合、ポート番号 1266 か、以前に設定されたポート（ある場合）がデフォルトで割り当てられます。

メモ: OpenManage Server Administrator (OMSA) がすでに 1311 にインストールされている場合、同じポートを iDRAC サービスモジュールに使用できません。

サイレントインストール

iDRAC サービスモジュールは、ユーザーコンソールなしでもバックグラウンドでサイレントにインストールできます。これは、パラメータと `setup.sh` を使用して実行できます。

`setup.sh` を使用するために渡すことができるパラメータは、次の通りです。

表 8. サイレントインストール

パラメータ	説明
-h	ヘルプ： ヘルプを表示します
-i	インストール： 選択した機能をインストールして有効にします
-x	エクスプレス： すべての機能をインストールして有効にします
-d	削除： iDRAC サービスモジュールコンポーネントをアンインストールします
-w	自動システムリカバリ： 自動システムリカバリ計装サービスを有効にします
-l	LC ログ： Lifecycle ログレプリケーションを有効にします
-o	OS 情報： オペレーティングシステムの情報を有効にします
-a	自動開始： コンポーネントのインストール後にインストールされたサービスを開始します
-O	ホスト OS を介した iDRAC アクセス： ホスト OS 機能を使用して iDRAC アクセスを有効にします
-s	帯域内 SNMP トラップを有効にします
-g	SNMP Get を介したアクセスを有効にします

メモ: Linux オペレーティングシステムでは、サイレントオプションを使用して操作を変更する機能は、Linux の Web パックから有効化し（`setup.sh` を使用）、以前、有効にされていた機能の状態が操作の変更中に新しい機能によって上書きされます。

Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、次の 2 種類の方法でアンインストールできます。

- アンインストールスクリプトを使用する
- RPM コマンドを使用する

アンインストールスクリプトを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールのアンインストールに使用するスクリプトは `dcism-setup.sh` です。シェルスクリプトを実行し、`d` を選択して iDRAC サービスモジュールをアンインストールします。

RPM コマンドを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、RPM コマンド `rpm -e dcism` をコマンドラインに入力するとアンインストールできます。

VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール

一部のシステムでは、出荷時に VMware ESXi がインストールされています。これらのシステムのリストについては、dell.com/support/home で最新の『システムソフトウェアサポートマトリクス』を参照してください。

iDRAC サービスモジュールは、VMware ESXi オペレーティングシステムを実行しているシステムでのインストール用の .zip ファイルとして提供されます。.zip ファイルは命名規則 **ISM-Dell-Web-3.2-<ビルド番号>.VIB-<バージョン>i-Live.zip** に従います。<バージョン> は対応 ESXi バージョンです。

対応 ESXi バージョンの zip ファイルは次のとおりです。

- ESXi の場合 - ISM-Dell-Web-3.2-<bldno>.VIB-ESX6i-Live.zip

ⓘ メモ: iDRAC サービスモジュールの機能設定は、強制的 / やむを得ない再起動後には保持されません。設定ファイルのバックアップは、60 分ごとに定期的に行われるスクリプト `/sbin/auto-backup.sh` 経由の ESXi ハイパーバイザーによって作成されます。設定を保持する場合は、システムを再起動する前に `backup.sh` スクリプトを手動で実行します。

ⓘ メモ: iDRAC サービスモジュール Live VIB パッケージをインストールまたはアンインストールした後に、ホスト OS の再起動は必要ありません。

<http://vmwaredepot.dell.com/> から VMware vSphere コマンドラインインタフェース (vSphere CLI) をダウンロードして、Microsoft Windows または Linux システム上にインストールします。または、VMware vSphere Management Assistant (vMA) を ESXi ホストにインポートできます。

vSphere CLI の使用

vSphere CLI を使用して VMware ESXi に iDRAC サービスモジュールのソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します。

1. ISM-Dell-Web-3.2.0-<bldno>.VIB-<version>i-Live.zip ファイルをシステムのディレクトリにコピーして解凍します。
2. ESXi ホスト上のすべてのゲストオペレーティングシステムをシャットダウンし、ESXi ホストをメンテナンスモードに設定します。
3. vSphere CLI を Windows で使用している場合は、vSphere CLI ユティリティをインストールしたディレクトリに移動します。vSphere CLI を Linux で使用している場合は、どのディレクトリからでもコマンドを実行できます。
4. 次のコマンドを実行します。

```
VMware ESXi 6.7 の場合 : esxcli --server <IP Address of ESXi 6.7 host> software vib install  
-d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>.
```

VMware ESXi 6.5 の場合 : `esxcli --server <IP Address of ESXi 6.5 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>.`

 **メモ:** vSphere CLI を Linux で使用している場合、拡張子 .pl は必要ありません。

5. プロンプトが表示されたら、ESXi ホストのルートユーザー名とパスワードを入力します。
コマンド出力には、アップデートの成否が表示されます。

VMware vSphere Management Assistant の使用

vSphere Management Assistant (vMA) によって、システム管理者および開発者は、ESXi システムを管理するためにスクリプトおよびエージェントを実行できます。vMA の詳細については、<http://vmware.com/support/developer/vima/> を参照してください。

1. システム管理者として vMA にログインし、プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
2. ISM-Dell-Web-3.2.0-<bltno>.VIB-<version>i-Live.zip ファイルをコピーして、vMA のディレクトリに解凍します。
3. ESXi ホスト上のすべてのゲストオペレーティングシステムをシャットダウンし、ESXi ホストをメンテナンスモードに設定します。
4. vMA で次のコマンドを実行します。

VMware ESXi 6.7 の場合 : `esxcli --server <IP Address of ESXi 6.7 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>.`

VMware ESXi 6.5 の場合 : `esxcli --server <IP Address of ESXi 6.5 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>.`

5. プロンプトが表示されたら、ESXi ホストのルートユーザー名とパスワードを入力します。

上記の手順を完了した後で、次の手順を実行します。

1. **iDRAC サービスモジュール** を管理ステーションに別途インストールします。
2. iDRAC サービスモジュールのインストール後、サービスを有効にします。

VMware Update Manager (VUM) の使用

iDRAC サービスモジュールをインストールするには、VMware Update Manager (VUM) を使用します。

1. 対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムに VMware vSphere 6.5 以降のバージョン (vCenter サーバ、vSphere クライアント、VMware vSphere Update Manager) をインストールします。
2. デスクトップで、VMware vSphere クライアント をダブルクリックして、vCenter サーバーにログインします。
3. vSphere クライアントホストを右クリックして、[新規データセンター] をクリックします。
4. [新規データセンター] を右クリックして、[ホストの追加] をクリックします。画面の指示に従って ESXi サーバの情報を入力します。
5. 直前の手順で追加された ESXi ホストを右クリックして、[メンテナンスモード] をクリックします。
6. [プラグイン] から [プラグインの管理] > [VMware Update Manager のダウンロード] を選択します。指示に従って、VUM クライアントをインストールします。
7. ESXi ホストを選択します。[Update Manager] > [管理者ビュー] > [パッチリポジトリ] > [パッチのインポート] の順にクリックして、画面の表示に従ってパッチのアップロードを完了します。
オフラインバンドルが表示されます。
8. [ベースラインおよびグループ] をクリックします。
9. [ベースラインタブから作成] タブをクリックし、ベースライン名を指定してベースラインタイプとして [ホスト拡張] を選択します。
指示に従って残りを完了します。
10. [管理者ビュー] をクリックします。
11. [ベースラインへの追加] (アップロードされたパッチ名に対して) をクリックして、手順 8 で作成したベースライン名を選択します。
12. [コンプライアンスビュー] をクリックします。[Update Manager] タブを選択します。添付 をクリックして手順 8 で作成した [拡張ベースライン] を選択し、指示に従います。
13. [スキャン] をクリックして、[パッチおよび拡張] を選択し (デフォルトで選択されない場合) [スキャン] をクリックします。

14. [ステージ] をクリックし、作成した [ホスト拡張] を選択し、指示に従います。

15. ステージングが完了したら [修正] をクリックして、指示に従います。

iDRAC サービスモジュールのインストールが完了しました。

 **メモ:** VMware Update Manager についての詳細は、VMware の公式ウェブサイトを参照してください。

 **メモ:** iDRAC サービスモジュール を VUM リポジトリ <https://vmwaredepot.dell.com/> からインストールすることができます。

Power CLI の使用

Power CLI を使用して、iDRAC サービスモジュールをインストールするには、次の手順を実行します。

1. 対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムに ESXi の対応 PowerCLI をインストールします。
2. ISM-Dell-Web-3.2.0-<bldno>.VIB-<version>i-Live.zip ファイルを ESXi ホストにコピーします。
3. bin ディレクトリに移動します。
4. Connect-VIServer を実行して、サーバおよび資格情報を提供します。
5. ESXi 6.5 U1、ESXi 6.7 の対応 vSphere CLI を使用して ESXi ホストにログオンし、データストアを作成します。
6. **ISM-Dell-Web-3.2.0-<ビルド番号>.VIB-<バージョン>i** フォルダを、ESXi 6.5 U1、ESXi 6.7 ホストの **/vmfs/volumes/<データストア名>** ディレクトリに作成します。
7. ESXi 5.0 U1 ホスト上の ESXi zip ファイルを **/vmfs/volumes/<データストア名>ISM-Dell-Web-3.2.0-<ビルド番号>.VIB-<バージョン>i** ディレクトリにコピーします。
8. 上で指定したディレクトリで zip ファイルを解凍します。
9. Power CLI で次のコマンドを実行します。

ESXi 6.7 の場合: `Install-VMHostPatch -VMHost <VMHost I.P address> - HostPath /vmfs/volumes/<datastore_name>name/ISM-Dell-Web-3.2.0-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-dell-iSM-esxi_3.2.0.ESXi670-0000-metadata.zip.`

ESXi 6.5 の場合: `Install-VMHostPatch -VMHost <VMHost I.P address> - HostPath /vmfs/volumes/<datastore_name>name/ISM-Dell-Web-3.2.0-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-dell-iSM-esxi_3.2.0.ESXi650-0000-metadata.zip.`

10. 次のコマンドを実行して、ホストに iDRAC サービスモジュールが正常にインストールされたかどうか確認します。 `esxcli software vib list|grep -i open.`
11. iDRAC サービスモジュールが表示されます。

 **メモ:** 上記の Power CLI コマンドを使用して iSM をインストールした後、ホスト OS を再起動します。

 **メモ:** Power CLI についての詳細は、VMware の公式ウェブサイトを参照してください。

VMware ESXi の iDRAC サービスモジュールのアップグレード

iDRAC サービスモジュールをアップグレードするには、`esxcli software vib update -v <viburl for latest version>` を実行します。

 **メモ:** アップグレードできる iDRAC サービスモジュールの最低バージョンは 3.1 です。

VMware ESXi の iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、次のコマンドを使用してアンインストールすることができます。

```
$ esxcli software vib remove -n iSM
```

Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュールは、Supplemental Pack (アップデートパッケージ) の ISO イメージの形式で、Citrix XenServer にインストールされます。iDRAC サービスモジュールの Supplemental Pack は、OS のインストール中に Supplemental Pack の追加を求めるプロンプトが表示されたときでも、または OS のインストール後にいつでもインストールできます。

Citrix XenServer への Dell GPG キーのインポート

Citrix XenServer 7.1 へ Dell GPG キーをインポートするには、次のタスクを実行します。

1. 次の Dell GPG キーを Citrix XenServer へダウンロードします：https://linux.dell.com/repo/pgp_pubkeys/0x1285491434D8786F.asc。
あるいは、SSH またはローカルコマンドシェルを使用してファイルディレクトリを直接ホストへダウンロードします。

```
$ wget https://linux.dell.com/repo/pgp_pubkeys/0x1285491434D8786F.asc
```
2. ファイルは名前を変更する必要があります。

```
$ mv 0x1285491434D8786F.asc RPM-GPG-KEY-DELL
```
3. Dell GPG キーをインポートします。

```
$ /opt/xensource/debug/import-update-key RPM-GPG-KEY-DELL
```

Citrix XenCenter 管理 GUI ダッシュボードを使用した iDRAC サービスモジュールのインストール

互換性のある Citrix XenCenter を起動して、Citrix XenServer 7.1 に接続します。

1. [Tools] (ツール) メニューで、[Install Update] (アップデートのインストール) を選択します。
2. [Next] (次へ) をクリックして、[Select Update] (アップデートの選択) 画面に進みます。
3. Select Update (アップデートの選択) を選択するか、ディスクから Supplemental Pack を選択して、iSM Supplemental Pack ISO ファイルを参照します。
4. Citrix XenServer ホストをチェックして導入します。次に、[Next] (次へ) をクリックします。
5. Update successfully loaded (アップデートが正常にロードされました) というメッセージが表示されたら、[Next] (次へ) をクリックします。
6. 事前チェックをすべてパスしたことを確認して [Next] (次へ) をクリックし、[Update Mode] (アップデートモード) オプションを選択します。
7. [Install Update] (アップデートのインストール) をクリックします。
8. [Finish] (終了) をクリックします。

SSH またはローカルコマンドシェルを使用した iDRAC サービスモジュールのインストール

1. ISO ファイルを、Citrix XenServer ホストか、ホストにマウントされているリモート ISO ライブラリ共有のいずれかにコピーします。詳細については、Citrix XenServer のドキュメントを参照してください。
2. Supplemental Pack をインストールします。

```
$ xe-install-supplemental-pack < iDRACServiceModule-supplemental-pack-filename>.iso
```

ⓘ メモ: Supplemental Pack (アップデートパッケージ) のインストール時の無効な署名：iDRAC サービスモジュールの Supplemental Pack のインストール中に、「無効な署名」というエラーが発生する場合、ホストの署名データベースに適切な Dell GPG キーが存在していません。この問題は、Citrix XenServer 7.1 のインストール中に発生する可能性があり、最初に手動でキーを各ホストにインポートしておく必要があります。Citrix XenServer 7.1 への Dell GPG キーのインポートの詳細については、「[Citrix XenServer への Dell GPG キーのインポート](#)」を参照してください。

システム設定ロックダウンモードが有効な場合の iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC を介してシステム設定ロックダウンモードが有効な場合は、iDRAC サービスモジュールに対して設定操作は実行できません。システム設定ロックダウンモードをオンにする前に有効になっていたすべての機能は、引き続き有効です。システム設定ロックダウンモードが有効になった後に iSM をインストールした場合は、ユーザーは以前に有効になっていた iSM 機能のみを使用することができます。iDRAC でシステム設定ロックダウンモードをオフにすると、すべての設定操作を実行できます。

iSM インストーラを取得するための iDRAC URI のサポート

第 14 世代のサーバ以降は、次の URL を使用して、iSM の Web パックをダウンロードできます：<https://<iDRACIP>/software/ism/package.xml> パッケージをダウンロードするには、iSM LC DUP がアップロードされ、iDRAC で利用できなければなりません。これは、iDRAC LC の自動アップデートを有効にして、iDRAC にロードすることもできます。

パッケージをダウンロードするには、xml に存在するファイル名を使用して、URL に追加します。

例：

```
<PayloadConfiguration>
<Image filename="OM-iSM-Dell-Web-LX-3.2.0.tar.gz" id="5DD5A8BA-1958-4673-BE77-40B69680AF5D"
skip="false" type="APAC" version="3.2.0"/>
<Image filename="OM-iSM-Dell-Web-LX-3.2.0.tar.gz.sign" id="E166C545-82A9-4D5D-8493-B834850F9C7A"
skip="false" type="APAC" version="3.2.0"/>
<Image filename="OM-iSM-Dell-Web-X64-3.2.0.exe" id="5015744F-F938-40A8-B695-5456E9055504"
skip="false" type="APAC" version="3.2.0"/>
<Image filename="ISM-Dell-Web-3.2.0-VIB-ESX6i-Live.zip" id="1F3A165D-7380-4691-
A182-9D9EE0D55233" skip="false" type="APAC" version="3.2.0"/>
<Image filename="RPM-GPG-KEY-dell" id="0538B4E9-DA4D-402A-9D96-A4A55EE2234C" skip="false"
type="APAC" version=""/>
<Image filename="sha256sum" id="06F61B54-58E2-41FB-8CE3-B7137A60E4B7" skip="false" type="APAC"
version=""/>
</PayloadConfiguration>
```

Microsoft Windows Web パックをダウンロードするには、次の URL にアクセスします。<https://<iDRACIP>/software/ism/OM-iSM-Dell-Web-X64-3.2.0.exe>

VMware ESXi Live VIB パッケージを LC からダウンロードするには、次の URL にアクセスします。<http://<iDRACIP>/software/ism/ISM-Dell-Web-3.2.0-VIB-ESX6i-Live.zip>

iDRAC FQDN としての idrac.local および drac.local のサポート

ホスト OS でサポートされているマルチキャストドメインネームシステム (mDNS) に関係なく、Web ブラウザに drac.local または idrac.local を入力してホスト OS から iSM を iDRAC GUI に接続できます。

ホスト OS を介したよりシンプルな iDRAC アクセス

14G 以降のサーバでは、ユーザーは login.html を iDRAC URL に追加する必要はありません。<https://<iDRACIP>:<ListenPortNumber>> を入力すると自動的に iDRAC ログインページにリダイレクトされます。

iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールの設定には次を使用することができます。

- [iDRAC ウェブインタフェース](#)
- [RACADM CLI コマンド](#)
- [WSMAN コマンド](#)

トピック：

- [iDRAC ウェブインタフェースからの iDRAC サービスモジュールの設定](#)
- [RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定](#)
- [WSMAN からの iDRAC サービスモジュールの設定](#)

iDRAC ウェブインタフェースからの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC ウェブインタフェースから iDRAC サービスモジュールを使用するには、[概要] > [サーバー] > [サービスモジュール] と選択します。

Service Module Installation	
Installation Status	Installed
Date of Last Install	3/23/2018
Available Installer Version	3.2.0
Repair or Reinstall Service Module	
Version	
Installed Version on Host OS	3.2.0
Service Module Status	
Connection Status on Host OS	Running
Service on Host OS	Enabled ▼
Monitoring	
OS Information	Enabled ▼

RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールは、RACADM CLI コマンドを使用してアクセスおよび設定できます。iDRAC サービスモジュールの機能のステータスを確認するには、`racadm get idrac .servicemodule` コマンドを使用します。このコマンドは、iDRAC サービスモジュールの機能とそのステータスを一覧表示します。

- OS 情報
- LCL レプリケーション
- WMI 情報
- 自動システムリカバリ処置
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- iDRAC ハードリセット
- HostSNMPAlert
- HostSNMPGet

機能を設定または構成するには、`racadm set idrac.servicemodule.<機能名> <enabled または disabled>` を使用します。

 **メモ:** リストされた属性または機能の名前の先頭にある # 記号は変更できません。

RACADM から iDRAC サービスモジュールを使用するには、dell.com/support/home で入手できる『*RACADM コマンドライン iDRAC 8 および CMC 向けリファレンスガイド*』の **サービスモジュール** グループにあるオブジェクトを参照してください。

WSMAN からの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールは、次のコマンドを使って WSMAN 経由でアクセスおよび設定できます。

```
winrm i ApplyAttributes http://schemas.dmtf.org/wbem/wscim/1/cim-schema/2/root/dcim/DCIM_iDRACCardService?CreationClassName=DCIM_iDRACCardService+Name=DCIM:iDRACCardService+SystemCreationClassName=DCIM_ComputerSystem+SystemName=DCIM:ComputerSystem -u:root -p:calvin -r:https://<Host IP address>/wsman -SkipCNcheck -SkipCAcheck -encoding:utf-8 -a:basic @{"Target="iDRAC.Embedded.1";AttributeName="AgentLite.1#<feature>";AttributeValue="1"}
```

WSMAN から iDRAC サービスモジュールを使用するには、dell.com/support/home で入手できる、Web services for Management (WS-Man) 管理プロトコルの活用情報と例が記載された『*Dell Lifecycle Controller 2 Web Services Interface Guide*』(Dell Lifecycle Controller 2 Web Services インタフェースガイド) を参照してください。

iDRAC サービスモジュール監視機能

次のサービスが提供されます。

- OS 情報
- オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション
- 自動システムリカバリ
- ストレージデータを含む Windows Management Instrumentation プロバイダ
- NVMe SSD デバイスの取り外し準備
- リモート iDRAC ハードリセット
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート
- WSMAN のリモートでの有効化
- iDRAC サービスモジュールの自動更新
- FullPowerCycle
- ボックス上の Support Assist

メモ: [FullPowerCycle] および [ボックス上の SupportAssist] は、第 14 世代の PowerEdge サーバでのみサポートされています。

トピック:

- オペレーティングシステム情報
- オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション
- 自動システムリカバリ
- Windows Management Instrumentation プロバイダ
- NVMe PCIe SSD デバイスの取り外しの準備
- リモート iDRAC ハードリセット
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート
- WSMAN のリモートでの有効化
- iDRAC サービスモジュールの自動アップデート
- FullPowerCycle
- ボックス上の SupportAssist
- 帯域内 SNMP Get 機能の有効化 - Linux
- 帯域内 SNMP Get 機能の有効化 - Windows
- iDRAC GUI の起動

オペレーティングシステム情報

OpenManage Server Administrator は現在、オペレーティングシステム情報とホスト名を iDRAC と共有しています。iDRAC サービスモジュールは、ホスト OS 名、サーバホスト IP アドレス情報、OS バージョン、完全修飾ドメイン名 (FQDN) などの同様の情報を iDRAC に提供します。ホスト OS 上でのネットワークインタフェースも表示されます。デフォルトでは、このモニタリング機能は有効になっています。この機能は、OpenManage Server Administrator がホスト OS にインストールされている場合でも使用できます。

VLAN、IPV6 ポリシーテーブルなどの情報は、ブラウザの Redfish クライアントプラグインを介して表示することもできます。

メモ: Redfish クライアントを使用して情報を表示するために必要な iDRAC の最小ファームウェアバージョンは 3.00.00.00 です。

オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション

Lifecycle Controller (LC) ログを OS ログに複製します。ターゲットとして (アラートページまたは同等の RACADM または WSMAN インタフェースで) OS ログオプションがあるすべてのイベントは、iDRAC サービスモジュールを使用して OS ログに複製されます。このプロセスは、OpenManage Server Administrator によって実行されるシステムイベントログ (SEL) のレプリケーションと同様のプロセスです。

OS ログに含まれる一連のデフォルトのログは、SNMP トラップ/アラート用に設定されるログと同じです。iDRAC サービスモジュールがインストールされた後に LC ログに記録されるイベントのみが OS ログに複製されます。OpenManage Server Administrator がインストールされている場合、この監視機能は OS のログ内の SEL エントリの重複を避けるために無効に設定されます。

iDRAC サービスモジュールでは、LC ログを複製する場所をカスタマイズすることができます。デフォルトでは、LC ログは Windows イベントビューアの **Windows ログ** フォルダにある **システム** グループ内に複製されます。LC ログは既存グループに複製するか、または新しいフォルダを Windows イベントビューアの **アプリケーションとサービスログ** フォルダ内に作成できます。

❶ **メモ:** LC ログを複製する場所を選択できるのは、iDRAC サービスモジュールのカスタムインストール中、または iDRAC サービスモジュールの変更中のみです。

❶ **メモ:** iDRAC サービスモジュールの LCL ログのソース名は、**iDRAC サービスモジュール** から **Lifecycle Controller ログ** に変更されました。

自動システムリカバリ

自動システムリカバリ機能は、ハードウェア障害発生時にサーバをリセットするために使用されるハードウェアベースのタイマーです。再起動、電源の入れ直し、指定時間経過後の電源オフなどのシステムの自動リカバリ動作を実行することができます。この機能を有効にできるのは、オペレーティングシステムのウォッチドッグタイマーが無効になっている場合のみです。OpenManage Server Administrator がインストールされている場合、この監視機能は、ウォッチドッグタイマーの重複を避けるために無効になります。

Windows Management Instrumentation プロバイダ

iDRAC サービスモジュールと共に提供される Windows Management Instrumentation (WMI) プロバイダは、Windows Management Instrumentation (WMI) を介してハードウェアデータを公開します。WMI は、オペレーティングシステムインタフェースを提供する Windows ドライバモデルに対する拡張の一式で、これを介して計装コンポーネントが情報と通知を提供します。WMI は、サーバーハードウェア、オペレーティングシステム、およびアプリケーションを管理するための Distributed Management Task Force (DMTF) からの Web-Based Enterprise Management (WBEM) および Common Information Model (CIM) 規格の Microsoft の実装です。WMI プロバイダは、Microsoft System Center などのシステム管理コンソールとの統合に役立ち、Microsoft Windows サーバーを管理するためのスクリプト記述を可能にします。

NVMe PCIe SSD デバイスの取り外しの準備

非揮発性メモリエクスプレス (NVMe) の Peripheral Component Interconnect Express (PCIe) ソリッドステートデバイス (SSD) は、システムをシャットダウンまたは再起動せずに削除できます。デバイスを削除する場合は、データ損失が発生しないように、デバイスに関連付けられているすべてのアクティビティを停止する必要があります。データ損失を防止するために、取り外し準備オプションを使用することで、すべてのデバイスに関連するバックグラウンドアクティビティを停止してから NVMe PCIe SSD を実際に取り外すことができます。

❶ **メモ:** VMware ESXi で [取り外し準備] 操作を実行する前に、VMware のドキュメントの前提条件の手順に従ってください。

リモート iDRAC ハードリセット

iDRAC を使用して、重要なシステムハードウェア、ファームウェア、またはソフトウェアの問題について対応サーバーを監視することができます。時折、iDRAC はさまざまな理由で応答しなくなることがあります。このような場合は、サーバーをソケットから引き抜いてオフにする必要がある場合があります。その後、iDRAC をリセットすることができます。

リモート iDRAC ハードリセット機能を使用すれば、iDRAC が応答しなくなったときにはいつでも、サーバーをシャットダウンする必要なくリモート iDRAC リセット操作を実行することができます。iDRAC をリモートにリセットするには、ホスト OS での管理者権限を持っていることを確認してください。リモート iDRAC ハードリセット機能はデフォルトで有効となっています。

ホスト OS を介した iDRAC アクセス

デルの PowerEdge サーバを使用して、iDRAC の専用ネットワークを設定して、iDRAC 経由でハードウェアまたはデバイスのファームウェアを管理できます。専用のネットワークポートを介して、GUI、WSMAN、RACADM、および Redfish クライアントなどの iDRAC インタフェースにアクセスできます。

ハードウェアまたはファームウェアを管理する前提条件として、デバイスとサポートされている iDRAC インタフェース間の専用接続が必要です。ホスト OS 機能経由の iDRAC アクセスを使用して、デバイスと iDRAC の専用ネットワーク間の接続に関係なく OS IP からまたはホストから iDRAC インタフェースに接続することができます。この機能により、iDRAC がサーバーに接続されていない場合でも、ハードウェアまたはファームウェアを監視できます。

次のサブ機能のいずれからでも、ホスト OS を介した iDRAC アクセスを有効にできます。

- [GUI、WS-MAN、Redfish、リモート RACADM を介したアクセス]
- [帯域内 SNMP トラップ]
- [SNMP Get を介したアクセス]

[ホスト OS を介した iDRAC アクセス] を選択した場合、すべてのサブ機能がデフォルトで選択されます。個別のサブ機能のいずれかを選択したい場合は、特定の機能を選択して有効にすることができます。

iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート

帯域外サーバ管理およびモニタリングツールである iDRAC を使用すると、SNMP トラップ / アラートをログに記録できます。ただし、帯域内エージェントを使用するホスト OS システムマネージメントの観点では、iDRAC から受信するトラップよりもホスト OS から受信される SNMP アラートが優先されます。SNMP アラートが iDRAC から受信された場合、アラートはシステム IP からではなく iDRAC IP からのものであるため、このアラートのソースを識別することが難しくなります。

サーバの第 14 世代以降、SNMP トラップ オプションが (警告 ページまたは同等の RACADM または WSMAN インタフェースで) ターゲットとなっているすべてのイベントは、iDRAC サービスモジュールを使用する OS を介して SNMP トラップとして受信することができます。iDRAC ファームウェア 3.0.0 以降、ISM LCL レプリケーション機能を有効にする必要はありません。iDRAC サービスモジュールがインストールされた後に LC ログに記録されるイベントのみが SNMP トラップとして送信されます。

iDRAC サービスモジュールを使用することにより、iDRAC によって生成されるアラートに類似した SNMP アラートをホスト OS から受信できます。

- ①

メモ: デフォルトでこの機能は無効になっています。帯域内 SNMP アラートメカニズムは iDRAC SNMP アラートメカニズムと共存可能ではありますが、記録されたログには両方のソースからの重複した SNMP アラートが含まれる場合があります。両方を使用する代わりに、帯域内または帯域外のオプションのいずれかを使用することが推奨されます。
- ①

メモ: 帯域内 SNMP 機能は、バージョンが最小 2.30.30.30 の iDRAC ファームウェアを持つ第 12 世代以降のデル PowerEdge Server で使用することができます。

WSMAN のリモートでの有効化

現在、WMI 情報機能を使用してホストの Microsoft Windows WMI 名前空間に接続し、システムのハードウェアを監視できます。ホスト上の WMI インタフェースはデフォルトで有効であり、リモートでアクセスできます。ただし、WINRM の WMI アダプタを使用して WMI インタフェースにアクセスする場合、デフォルトでは有効になっていないため、手動で有効にする必要があります。この機能を使用すると、WINRM WMI 名前空間をインストール中に有効にしてリモートでアクセスできます。

この機能には、PowerShell コマンドを使用してアクセスできます。使用するコマンドは次のとおりです。

表 9. WSMAN のリモートでの有効化

コマンド	説明
Enable-ismWSMANRemote -Status enable - Forcereconfigure yes -Createselfsigncert yes - IPAddress <IP address> -Authmode Basic, Kerberos, Certificate	リモート WSMAN 機能の有効化と設定

表 9. WSMAN のリモートでの有効化（続き）

コマンド	説明
Enable-iSMWSMANRemote -Status get	リモート WSMAN 機能のステータスの表示
Enable-iSMWSMANRemote -Status disable	WSMAN リモート機能の無効化
Enable-iSMWSMANRemote -Status enable - Forcereconfigure yes -Createselfsigncert yes - IPAddress <IP address>	リモート WSMAN 機能の再設定

❗ **メモ:** この機能进行操作するには、サーバの認証証明書と https プロトコルが必要です。

iDRAC サービスモジュールの自動アップデート

iDRAC サービスモジュールを自動的にアップデートできます。iSM 自動アップデートを iDRAC 自動アップデートプロセスに統合して、アップデートプロセスを容易にすることが目標です。

❗ **メモ:** iDRAC 自動アップデートが有効になっている場合、iDRAC サービスモジュール LC DUP を dell.com/support から最新バージョンにアップデートする必要があります。

❗ **メモ:** support.dell.com からアップデートをダウンロードする必要はありません。更新された iSM パッケージは iDRAC でローカルに使用できます。

❗ **メモ:** iDRAC LC 消去オプションを使用すると、iDRAC の iDRAC サービスモジュール LC DUP は削除されます。iDRAC サービスモジュール LC DUP は、dell.com/support からダウンロードする必要があります。

- iSM をインストールまたはアップデートするには、コマンドプロンプトに dcism-sync.exe と入力します。インストールウィザードの手順を完了します。
- ヘルプコンテンツを表示するには、--help/-h と入力します。
- サイレントインストールまたはアップデートを行うには、--silent/-s と入力します。
- 現在のバージョンをアンインストールして LC で使用可能なアップデートパッケージをインストールするには、--force/-f と入力します。

❗ **メモ:** このオプションは、前の設定を上書きします。

- アップデートパッケージのバージョンと、iDRAC サービスモジュールにインストールされているバージョンの詳細を取得するには、--get-version/-v と入力します。
- iDRAC サービスモジュールアップデートパッケージをユーザー指定のディレクトリにダウンロードするには、--get-update/-g と入力します。
- 特定の機能をインストールするには、msiexec.exe で使用される CLI 引数と同じように、dcism-sync.exe -p "feature" と入力します。

たとえば、Windows でホスト OS の iDRAC 機能を介して iDRAC アクセスをインストールするには、dcism-sync.exe -p "ADDLOCAL=IBIA" と入力します。

FullPowerCycle

FullPowerCycle は、サーバの補助電源をリセットする方法を提供するインタフェース呼び出し機能です。サーバの補助電源で動作するサーバハードウェアの数が増加しています。また、トラブルシューティングのために、サーバの電源コードを物理的に抜いて、補助電源で動作するハードウェアをリセットする必要があるサーバの問題もあります。誰かに電源コードを物理的に抜く/差し込んでもらうことは、大幅なコストとお客様やサポート担当者の手間につながります。

FullPowerCycle 機能を使用すれば、データセンターにアクセスせずにリモートから補助電源を接続または切断できます。この機能は、Dell EMC PowerEdge サーバの第 14 世代以降でサポートされます。

このインタフェースを介してフルパワーサイクル要求が発行されたとき、システム電源はすぐに影響を受けません。代わりに、システムが S5 状態に移行したときに照会されるフラグが設定されます。FullPowerCycle 機能を有効にするには、要求コマンドの発行後に、システムのシャットダウンコマンドも発行する必要があります。このフラグが S5 エントリに設定されている場合、AC を取り外して交換するのと同様に、システムが強制的に一時的な低電力状態になります。このフラグは、システムが S5 状態に入る前の、システムが S0 状態にあるときにはいつでも、**キャンセル** 機能を使用して、クリアできます。

システムで異なる FullPowerCycle オプションを利用可能にすることができます。システムでのフルパワーサイクルを要求、ステータスを取得、キャンセルするには、次のコマンドを使用します。

Windows オペレーティングシステムの場合、FullPowerCycle 有効化（要求）、FullPowerCycle のキャンセル、FullPowerCycle のステータス取得の操作へのショートカットメニューが使用可能です。

- システムで FullPowerCycle を要求するには、`./Invoke-FullPowerCycle -status request` と入力します。
メモ: サーバのオペレーティングシステムによって仮想 AC パワーサイクル動作がトリガされたというメッセージが表示されます。
- システムでのフルパワーサイクルのステータスを取得するには、`./Invoke-FullPowerCycle -status get` と入力します。
- システムでのフルパワーサイクルをキャンセルするには、`./Invoke-FullPowerCycle -status cancel` と入力します。
メモ: スケジュールされた日付と時刻にシステムがオフになるというメッセージが表示されます。
- Linux オペレーティングシステムで FullPowerCycle を要求するには、`/opt/dell/srvadmin/iSM/bin/Invoke-FullPowerCycle request` と入力します。
- Linux オペレーティングシステムで FullPowerCycle をキャンセルするには、`/opt/dell/srvadmin/iSM/bin/Invoke-FullPowerCycle cancel` と入力します。
- Linux オペレーティングシステムで FullPowerCycle のステータスを取得するには、`/opt/dell/srvadmin/iSM/bin/Invoke-FullPowerCycle get-status` と入力します。

各 FullPowerCycle 操作が正常に終了すると、オペレーティングシステムログおよび LCL に次のメッセージが表示されます。

要求メッセージ: "The Full Power Cycle operation is triggered by the server operating system (OS) user <user name> from the OS on date <date>. However, the server components will be AC power cycled when the server is shut down".

キャンセルメッセージ: "The Full Power Cycle operation is successfully cancelled by the server operating system (OS) user <user name> from the OS on date <date>".

メモ: FullPowerCycle 機能は、ESXi および Citrix XenServer オペレーティングシステムでは使用できません。

メモ: FullPowerCycle 機能は、ローカル / ドメイン管理者または root / sudo ユーザーのみ使用できます。

ボックス上の SupportAssist

SupportAssist は時間を節約し、テクニカルサポートのサポートケースを合理化します。イベントベースのコレクションは、SupportAssist を使用してオープンサービスリクエストを作成します。スケジュールされたコレクションは、環境の監視と維持をサポートします。これらのコレクションには、ハードウェアデータ、RAID コントローラログ、OS、およびアプリケーションデータが含まれます。サポートされている機能は次の通りです。

- [SupportAssist 登録] - iSM は、SupportAssist 登録をサポートします。これは、1 回限りのアクティビティです。名前、電子メール、住所、電話番号などの必要な詳細情報を入力して、登録を完了します。
- [SupportAssist Collection] — iDRAC の SupportAssist Collection 機能は、ハードウェア、OS、および関連するアプリケーションデータについての情報を収集し、この情報を圧縮します。

SupportAssist は、次のことも提供します。

- プロアクティブな問題の識別
- ケースの自動作成
- デルのテクニカルサポートのエージェントが開始するサポートの連絡

メモ: SupportAssist を利用するには、登録を完了する必要があります。

SupportAssist ダッシュボードには、次の項目を表示できます。

[サービスリクエストサマリ]

サービスリクエストサマリのセッションでは、次のリクエストの詳細を表示できます。

- オープン
- クローズ
- 送信済み

[Support Assist の概要]

契約タイプと有効期限の日付およびこのセッションの [自動収集] 設定の詳細などの [サービス契約] 詳細を参照できます。

[サービスリクエスト] タブで、作成されたリクエストとステータス、説明、ソース、サービスリクエスト ID、オープンした日付、クローズした日付などのリストを表示することもできます。

[コレクションログ] タブをクリックすると収集日時、ジョブ ID、コレクションタイプ、収集したデータ、収集ステータス、送信時刻などを表示することができます。

① **メモ:** 第 14 世代サーバ以降、iDRAC から SupportAssist コレクションを手動で開始すると、USB 大容量ストレージデバイスはホスト OS に公開されません。OS コレクタファイルおよび収集したログファイルの転送は、iDRAC と iSM との間で内部的に処理されます。

① **メモ:** ESXi での OS およびアプリケーションデータの収集は、第 14 世代以降の PowerEdge サーバでのみサポートされています。

SupportAssist 登録

登録を開始する前に、iDRAC サービスモジュールがインストールされ、ホスト OS 上で実行されていること、適切なインターネット接続が利用できることを確認します。

1. iDRAC にログインします。[メンテナンス] ドロップダウンメニューで、[SupportAssist] 機能を選択します。
[SupportAssist 登録] ウィザードが表示されます。
2. [ようこそ] タブで、[次へ] をクリックします。
3. [連絡先および配送先情報] タブで、[名前]、[姓]、[電話番号]、[代替番号]、[電子メールアドレス]、[会社名]、[住所 1]、[住所 2]、[市]、[県]、[郵便番号]、および [国] などの主要連絡先情報を入力します。

① **メモ:** [セカンダリ連絡先の追加] オプションをクリックして二次連絡先情報を追加できます。

① **メモ:** 登録を続行するには、必要なすべての必須情報を入力する必要があります。

4. 連絡先および配送先情報を入力したら、[次へ] をクリックします。
5. ソフトウェアライセンス契約を読んで、[ライセンス契約の条件に同意します] を選択してから、[登録] をクリックします。
① **メモ:** 登録プロセスの完了には数分かかる場合があります。登録が正常に完了すると、登録した電子メールアドレスに SupportAssist からようこそ電子メールを受信します。
6. [サマリ] タブに、[登録 ID] および [自動機能] の現在の設定の詳細情報が表示されます。
7. [SupportAssist 登録] ウィザードを終了するには、[閉じる] をクリックします。
SupportAssist ページで、下部へ移動すると連絡先情報を表示できます。
8. [編集] オプションをクリックして、プライマリまたはセカンダリ連絡先情報を変更します。[保存] をクリックして変更を適用します。

SupportAssist Collection

iDRAC の SupportAssist Collection 機能は、ハードウェア、OS、関連アプリケーションのデータに関する情報を収集して圧縮します。現在、OS Collector ツールを手動で実行し、SupportAssist Collection レポートを生成する必要があります。iDRAC サービスモジュールを使用すると、OS コレクタツールが関連する OS およびハードウェア情報を自動的に収集します。サポートログの自動収集には、OS およびアプリケーションの情報収集も含まれます。

iDRAC サービスモジュールを使用すると、収集プロセスが自動化されるため、テクニカルサポートレポート収集の手順が節約できます。

[SupportAssist] ホームページの [収集の開始] ボタンをクリックして、SupportAssist Collection 機能を実行できます。

収集は、次のいずれかの方法で起動できます。

- 手動
- イベントベース
- スケジュールベース

収集するデータ

イベントベースのトリガがある場合、およびまたはスケジュールされたペースで、SupportAssist は自動的にコレクションを作成し、テクニカルサポートに送信します。次のタイプの情報を収集できます。

- [システム情報]
- [ストレージログ]

- [OS およびアプリケーションデータ]
- [デバッグログ]

収集プリファランス

ユーザーは、この機能を使用してコレクションのプリファレンスを選択または設定できます。いずれかのタイプのコレクションのプリファレンスを選択して、コレクションレポートを保存することができます。

- [今すぐ送信] — [収集] オプションをクリックすると、「the job has been successfully added to the job queue」という通知を受信します。
- [ローカルで保存]
- [ネットワークに保存] — このオプションを選択すると、[プロトコル] [IP アドレス] [共有名] [ドメイン名] [ユーザー名] および [パスワード] などの [ネットワーク設定] の詳細を入力する必要があります。

コレクションプリファレンスのいずれかを選択し、[収集] をクリックしてデータを受信できます。

❗ メモ: この機能は、対応 Microsoft または Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムでの iDRAC サービスモジュール 2.0 以降のバージョンのインストール時に、デフォルトで使用可能になります。この機能を無効にすることはできません。

❗ メモ: CentOS では、Automatic SupportAssist Collection の OS ログ収集機能はサポートされません。

❗ メモ: ESXi での OS およびアプリケーションデータの収集は、第 14 世代以降の PowerEdge サーバでのみサポートされています。

匿名のレポート収集

iDRAC サービスモジュールのバージョン 3.1 以降は、登録プロセスを完了せずに SupportAssist Collection / アップロードを実行することができます。ISM 3.0.2 までは、SupportAssist Collection の実行には登録が必須条件でした。

匿名の収集機能がサポートされている iDRAC ファームウェアは、第 14 世代 PowerEdge サーバの 3.15.15.15 と、第 12 世代および第 13 世代 PowerEdge サーバの 2.60.60.60 です。

SupportAssist Collection の設定

SupportAssist ダッシュボード内を移動して、[設定] ドロップダウンメニューをクリックし、SupportAssist Collection 設定を開くことができます。

アーカイブディレクトリの設定

ディレクトリに SupportAssist が実行したコレクションのコピーを保管できます。[アーカイブディレクトリの設定] ボタンをクリックして場所を設定する必要があります。

識別情報

ドロップダウンメニューをクリックし、次のオプションのいずれかを選択すると、送信するデータに識別情報を含めることができます。

- [無]
- [有]

電子メール通知

新しいサポートケースが開かれるか、または新しい SupportAssist コレクションがアップロードされたら、電子メール通知を受信する個別設定を選択できます。[電子メール通知] ドロップダウンメニューから、次のいずれかのオプションを選択します。

- [有]
- [無]

言語の設定を選択することもできます。利用可能な言語は次の通りです。

- [英語]

- [ドイツ語]
- [フランス語]
- [日本語]
- [スペイン語]
- [簡体字中国語]

自動収集

自動収集機能はデフォルトで有効です。この機能を無効にするには、ドロップダウンメニューを使用します。

- [Enable (有効)]
- [Disable (無効)]

[スケジュールの自動コレクション] ドロップダウンメニューから次のオプションのいずれかを選択してスケジュールする収集の時間を指定できます。

- [毎週]
- [毎月]
- [毎四半期]
- [なし]

自動収集を反復として設定することもできます。

ProSupport Plus 推奨事項レポートを表示するには、[ProSupport Plus 推奨事項レポートの送信] から [はい] を選択します。

プリファレンスの設定後に、[適用] をクリックして変更を保存します。

帯域内 SNMP Get 機能の有効化 - Linux

Net-snmp パッケージをインストールして、リモートシステムからの SNMP 要求を受信するように設定する必要があります。

setup.sh インストーラで帯域内 SNMP Get 機能をインストールするには、次のタスクを実行します。

1. ./setup.sh を実行し、setup.sh スクリプトを使用して iSM のインストールを開始します。
2. ライセンス契約を確認して同意し、インストールを続行します。
3. 次のページに、機能のリストが表示されます。[4.c] と入力し、[ホスト OS を介した iDRAC アクセス] 下にある [SNMP Get を介したアクセス] サブオプションを選択して、[Enter] を押します。
4. この機能が有効になった後、[1] と入力して [Enter] を押し、選択した機能のインストールプロセスを開始します。
5. インストールが正常に終了した後に、iDRAC サービスモジュールのプロセスを開始します。
SNMP エージェントサービスが iDRAC で有効でない場合は、iSM は SNMP エージェントを有効に設定します。
6. SNMP エージェントのプロパティを表示するには、iDRAC GUI で [設定] に移動します。
7. [iDRAC サービスモジュールのセットアップ] をクリックします。
8. [監視] セッションで、[ホスト OS を介して SNMP Get] オプションが有効であることを確認します。
9. 新しい「PuTTY の設定」ウィンドウを開き、ホスト名の IP アドレスを入力し、[開く] をクリックします。
10. [PuTTY セキュリティアラート] で [はい] をクリックします。
11. 正しい資格情報で iDRAC にログインします。
12. **racadm get iDRAC.ServiceModule.HostSNMPGet** と入力して、Enter を押します。
[HostSNMPGet] が有効であることが表示されます。

メモ: 帯域内 SNMP Get 機能が iSM のインストール中に有効にされなかった場合、iDRAC GUI/Racadm コマンドで後から有効にすることができます。

- iDRAC GUI から - [iDRAC 設定 -> 設定 -> iDRAC サービスモジュールのセットアップ -> ホスト OS を介して SNMP Get を有効化 -> 有効または無効]
- Racadm から - [racadm set idrac.servicemodule.HostSnmGet 「有効」 または 「無効」]

メモ: 帯域内 SNMP Get 機能用の iDRAC GUI/Racadm コマンドは、第 14 世代のサーバのみに適用されます。第 12 および 13 世代のサーバでこの機能を有効 / 無効にするには、iSM インストーラを使用する必要があります。

メモ: SNMP Get 機能が有効になると、SNMPv3 に対応するため内部的に iDRAC ユーザー「iSMSnmpUser」が作成されます。ユーザーがすでに存在する場合、「ユーザー名がすでに存在するため、iDRAC に「iSMSnmpUser」を作成できません。ホスト OS を介した SnmGet 機能は無効になります。」というエラーメッセージをログに記録され、この機能は無効になります。このような場合は、iDRAC の「iSMSnmpUser」を削除し、**ホスト OS を介した SNMP Get の有効化** 機能を iDRAC

GUI からもう一度有効にします。この機能を無効にするか、または iSM をアンインストールすると、iSM によって作成された「iSMsnmpUser」は削除されます。

帯域内 SNMP Get 機能の有効化 - Windows

帯域内 SNMP Get 機能により、ホストオペレーティングシステムで SNMP サービスでシステム管理データを照会することができます。この機能を使用するための前提条件として、ホストの SNMP サービスを有効に設定する必要があります。

iDRAC で SNMP サービスを有効にする必要があります。有効でない場合は、iDRAC サービスモジュールが iDRAC で SNMP サービスを有効に設定します。この機能は、iDRAC インタフェースまたはインストーラで、有効または無効にすることができます。

この機能は、Microsoft Windows オペレーティングシステムでは SNMP v1 および v2 をサポートし、Linux オペレーティングシステムでは v1、v2、v3 をサポートします。

 **メモ:** 帯域内 SNMP Get 機能用の iDRAC GUI/Racadm コマンドは、第 14 世代のサーバのみに適用されます。

 **メモ:** iDRAC サービスモジュール 3.1 は、iDRAC SNMP OID 1.3 のみをサポートします。6.1.4.1.674.10892.5.

iDRAC GUI の起動

iDRAC サービスモジュール 3.1 以降では、ローカルシステムから iDRAC GUI を起動できます。[iDRAC GUI の起動] アイコンをダブルクリックします。デフォルトのブラウザに、iDRAC GUI のログインページが開きます。iDRAC 資格情報で、iDRAC ホームページにログインします。Microsoft Windows オペレーティングシステムでのみサポートされます。iSM 3.1 以降が正常にインストールされている場合は、スタートメニューからショートカットを使用できます。

 **メモ:** iDRAC サービスモジュールが無効の場合は、iDRAC GUI の起動アイコンも無効です。

 **メモ:** デフォルトのブラウザプロキシがシステムプロキシを使用するように設定されている場合は、iDRAC GUI の起動が失敗します。アドレスバーから IP アドレスをコピーして、「プロキシ設定」の例外リストに入力します。

よくあるお問い合わせ（FAQ）

本項では、iDRAC サービスモジュールに関する FAQ をリストしています。

iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、OpenManage Server Administrator をアンインストールする必要はありますか？

番号 iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、iDRAC サービスモジュールの OpenManage Server Administrator 機能が停止していることを確認してください。

 **メモ:** OpenManage Server Administrator をアンインストールする必要はありません。

システムに iDRAC サービスモジュールがインストールされていることを確認する方法を教えてください。

iDRAC サービスモジュールがインストールされているかどうかを確認するには、次の操作を実行します。

- Windows の場合：

`service.msc` コマンドを実行します。**DSM iDRAC サービスモジュール** という名前のサービスがない場合は、サービスのリストから探します。

- Linux の場合：

`/etc/init.d/dcismeng status` コマンドを実行します。iDRAC サービスモジュールがインストール済みで実行されている場合は、ステータスが **実行中** となります。

 **メモ:** `init.d` コマンドの代わりに `systemctl status dcismeng.service` コマンドを使用して、iDRAC サービスモジュールが RedHat Enterprise Linux 7 および SUSE Linux Enterprise 12 オペレーティングシステムにインストールされているかどうかチェックします。

システムにインストールされている iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認する方法を教えてください。

iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認するには、[スタート] > [コントロールパネル] > [プログラムと機能] の順にクリックします。インストールされている iDRAC サービスモジュールのバージョンが [バージョン] タブに一覧表示されます。また、[マイコンピュータ] > [プログラムのアンインストールまたは変更] を選択しても、バージョンのチェックを実行できます。

iDRAC サービスモジュールをインストールするために必要な最低許可レベルは何ですか？

iDRAC サービスモジュールのインストールには、オペレーティングシステムの管理者レベルの権限が必要です。

iDRAC サービスモジュールをインストールしようとする
と、[このサーバーはサポートされていません] というエ
ラーメッセージが表示されます。対応サーバーの詳細につ
いては、『ユーザーズガイド』を参照してください。どうす
ればよいですか？

iDRAC サービスモジュールをインストールする前に、iDRAC サービスモジュールのインストール先であるサーバまたはシステムが第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバであることを確認してください。また、64 ビットシステムを使用していることも確認し
ます。

USBNIC 経由の OS to iDRAC パススルーが正しく設定され
ていても、[iDRAC サービスモジュールは、OS to iDRAC パ
ススルーチャネルを使用して、iDRAC と通信できません]
というメッセージが OS ログに表示されます。このメッセ
ージが表示されるのはなぜですか？

iDRAC サービスモジュールは、USBNIC 経由の OS から iDRAC へのパススルーを使用して iDRAC との通信を確立します。時折、正
しい IP エンドポイントが設定された USBNIC インタフェース経由でこの通信が確立されないことがあります。これは、ホスト OS
のルーティングテーブルに同じ宛先マスクに対する複数のエントリが含まれており、USBNIC 宛先がルーティング順序の最初にリ
ストされていないときに発生する可能性があります。

表 10. 詳細

Destination (送 信先)	ゲートウェイ	Genmask	フラグ	メトリック	参照	使用インタフェ ース
デフォルト	10.94.148.1	0.0.0.0	UG	1024	0	0 em1
10.94.148.0	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 em1
link-local	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 em1
link-local	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 enp0s20u12u3

この例では、**enp0s20u12u3** が USBNIC インタフェースであり、リンクローカル宛先マスクが繰り返され、USBNIC が順序の最初
になっていません。このため、OS to iDRAC パススルー経由の iDRAC サービスモジュールと iDRAC 間における接続問題が発生する
結果となります。接続問題のトラブルシューティングを行うには、次の手順のいずれかを実行することができます。

iDRAC USBNIC IPv4 アドレス (デフォルトで 169.254.1.1) がホスト OS から到達可能であることを確認します。到達可能でない場
合は、次の手順を実行します。

- 一意の宛先マスクで iDRAC USBNIC アドレスを変更します。
- 不要なエントリをルーティングテーブルから削除し、ホストが iDRAC USBNIC IPv4 アドレスに到達したい時に USBNIC がルー
トによって選択されるようにします。

iDRAC サービスモジュールをインストールしようとする
と、このオペレーティングシステムがサポートされていな
いというエラーメッセージが表示されます。

iDRAC サービスモジュールをインストールできるのは、対応オペレーティングシステム上のみです。対応オペレーティングシス
テムについての情報は、「[対応オペレーティングシステム](#)」を参照してください。

リモート iDRAC ハードリセット機能を使用して iDRAC をリセットしました。しかし、IPMI が応答せず、トラブルシューティングができません。

VMware ESXi 5.5 U3 または ESXi 6.0 U1 でリモート iDRAC ハードリセット機能を使用しようとすると、IPMI ドライバが応答しなくなり、そのために iDRAC サービスモジュールの通信が停止されます。この問題を解決するには、サーバを再起動して、IPMI ドライバを再度ロードする必要がある場合があります。

複製された LifeCycle ログはオペレーティングシステムのどこにありますか？

複製された Lifecycle ログを表示するには、次の手順を実行します。

表 11. よくあるお問い合わせ

オペレーティングシステム	場所
Microsoft Windows	[イベントビューア] > [Windows ログ] > [] 既存のグループまたはカスタムフォルダ を選択します。iDRAC サービスモジュールのすべての LifeCycle ログは、[iDRAC Service Module] というソース名の下で複製されます。
Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux、CentOS、および Citrix XenServer	/var/log/messages
VMware ESXi	/var/log/syslog.log

Linux オペレーティングシステムでアラートを送信するために iDRAC サービスモジュールで設定されているデフォルトの SNMP プロトコルは何ですか？

デフォルトでは、SNMP 多重化プロトコル (SMUX) が iDRAC サービスモジュールでアラートを送信するよう設定されています。

SMUX がシステムでサポートされていません。アラートを送信するためにはどのプロトコルを設定する必要があるのでしょうか？

SMUX がシステムでサポートされていない場合、Agent-x がデフォルトのプロトコルとして使用されます。

Agent-x プロトコルを使用してデフォルトでアラートを送信するよう設定するには、iDRAC サービスモジュールをどのように設定しますか？

`./Enable-iDRACSNMPTrap.sh 1/agentx -force` コマンドを使用して、Agent-x をデフォルトのプロトコルとして設定できます。`-force` が指定されていない場合は、net-SNMP が設定され、snmpd サービスを再起動していることを確認します。

Linux のインストール中にインストールする必要がある Linux 依存パッケージまたは実行可能プログラムは何がありますか？

Linux 依存パッケージのリストを確認するには、「[Linux 依存性](#)」を参照してください。

Windows イベントビューアにカスタムフォルダを作成しましたが、LC ログがカスタムフォルダに複製されていませんか。ここで LC ログを複製するにはどうすればよいですか？

カスタムフォルダの作成後に Windows イベントビューア を閉じるようにしてください。その後再度 Windows イベントビューア を開いて、複製された LC ログを表示してください。

iDRAC サービスモジュールのインストール中に、グラフィカルユーザーインターフェースからカスタムインストールオプションを選択して、ある機能を無効化したのですが、その機能を他のインターフェースから有効化することができません。この機能を再び有効化するにはどうすればよいですか？

Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行するシステムでは、インストーラを使用して有効化され、そのインストーラ以外のインターフェースを使用して無効化された機能を有効化することができるのは、同じインターフェース、またはグラフィカルユーザーインターフェースモードのインストーラのみです。

例えば、iDRAC サービスモジュールのインストール中にグラフィカルユーザーインターフェースから無効化された機能は、RACADM CLI コマンドを使用しても有効化できない場合があります。

LDAP 経由の Active Directory ユーザーとしてホスト OS から iDRAC ページにアクセスできません。ホスト OS から iDRAC ページにアクセスを試みているが、サイトに到達できないという内容のエラーが発生します。この問題を解決するにはどうすればよいですか？

ホスト OS から iDRAC ページにアクセスしようとすると、サイトに到達できないという内容のエラーが発生する場合があります。iDRAC ネットワークを LDAP ユーザーとしての認証用に設定してください。ローカルユーザーまたはゲストとしてログインすることもできます。

iDRAC の工場出荷時の設定へのリセット操作 (`racadm racresetcfg` など) を実行すると、ホスト OS から iDRAC ページにアクセスできなくなりました。この問題を解決するにはどうすればよいですか？

OS から iDRAC へのパススルーチャンネルを有効にしてください。出荷時モードではデフォルトで無効化されています。iDRAC で OS から iDRAC へのパススルーチャンネルを有効にするには、コマンド `racadm set idrac.os-bmc.adminstate 1` を使用します。

オペレーティングシステムログに複製された SNMP トラップを対象とした、過去の LifeCycle ログ (LCL) 警告を見えています。問題をトラブルシューティングできますか？

iSM は、SNMP トラップに対する過去の LifeCycle ログ (LCL) 警告と OS ログに対する過去の LCL 警告を区別することはできません。したがって、SNMP トラップに OS ログに対する過去の LCL 警告が表示されることもその反対もあり得ます。

iSM を介して受信した iDRAC SNMP トラップのソース IP アドレスとして 169.254.0.2 が表示されています。この問題を解決するにはどうすればよいですか？

Linux OS では、ホスト OS を通じて受信された iDRAC SNMP トラップでは、ホスト名またはソース IP アドレスが実際のホスト OS 名または IP アドレスの代わりに 169.254.0.2 として表示されます。これは、OS の決定によって、トラップをユーザーにレンダリングする前にエントリに入力されます。

LOM へ OS から iDRAC へのパススルーを設定し、`dcism-sync` を実行しようとする、アップデート操作が失敗します。どのように対処したらよいですか？

OS から iDRAC へのパススルーは、USB NIC モードに対して設定する必要があります。これは、事前に iDRAC サービスモジュールのインストールとアップデートのための前提条件です。

ホスト OS で Hyper-V が有効になっていると、iSM は iDRAC と通信できません。どうすればよいですか？

[ネットワークアダプタ] にあるリモート NDIS デバイスを有効にします。

Linux および Ubuntu インストーラパッケージ

対応 Linux および Ubuntu OS のインストーラパッケージは次の通りです。

表 12. Linux インストーラパッケージ

対応 Linux オペレーティングシステム	インストーラパッケージ
Red Hat Enterprise Linux 6	SYSMGMT\ism\linux\RHEL6\x86_64\dcism-3.2.0-<bldno>.el6.x86_64.rpm
Red Hat Enterprise Linux 7	SYSMGMT\ism\linux\RHEL7\x86_64\dcism-3.2.0-<bldno>.el7.x86_64.rpm
SUSE Linux Enterprise Server 11	SYSMGMT\ism\linux\SLES12\x86_64\dcism-3.2.0-<bldno>.sles11.x86_64.rpm
SUSE Linux Enterprise Server 12	SYSMGMT\ism\linux\SLES12\x86_64\dcism-3.2.0-<bldno>.sles12.x86_64.rpm
Ubuntu 16	SYSMGMT\ism\linux\Ubuntu16\x86_64\dcism-3.2.0-<bldno>.ubuntu16.deb

 **メモ:** リストから任意のインストーラパッケージを使用して、iDRAC サービスモジュールを CentOS にインストールできます。